

経営比較分析表（令和2年度決算）

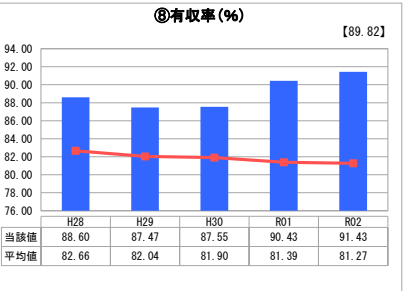
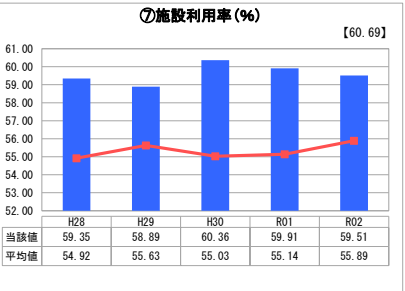
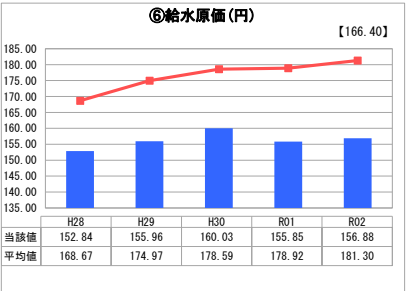
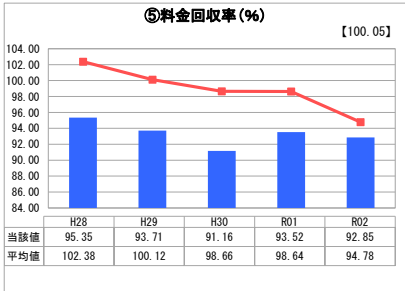
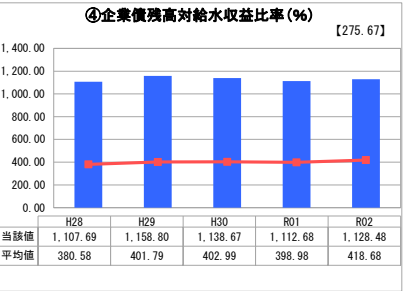
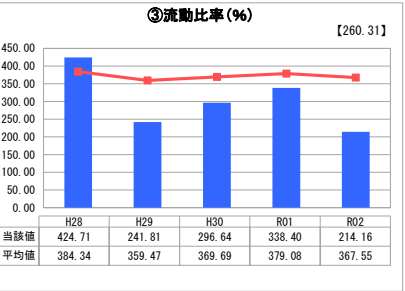
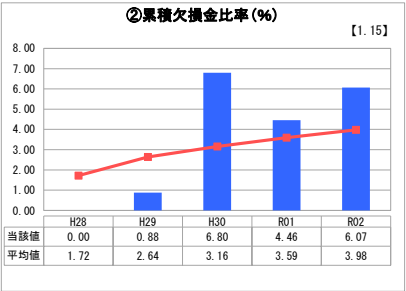
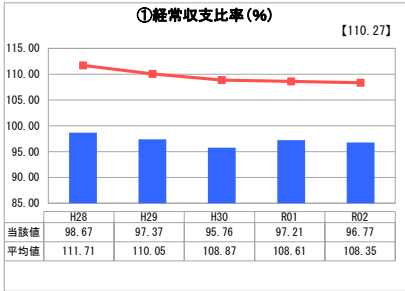
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	61.90	99.28	2,915	

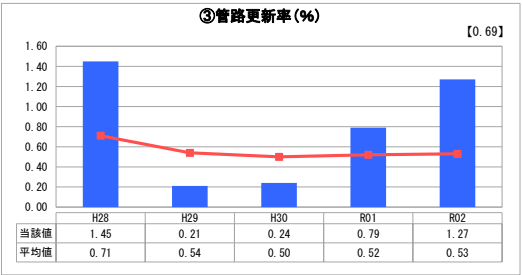
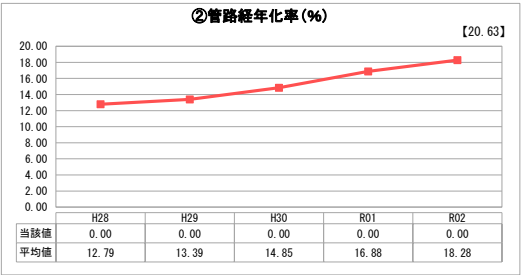
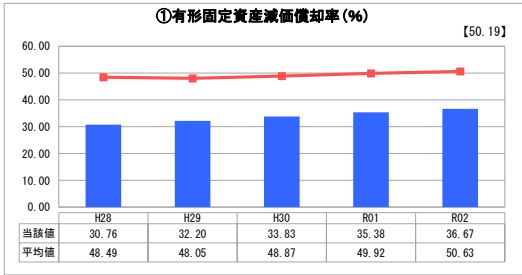
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,619	89.45	196.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,400	34.86	499.14

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
人口減少などによる給水収益が減少する一方で、減価償却費は年々増加しており、5年連続で赤字経営となっている。このため、給水収益等の増収と、維持管理費や減価償却費の抑制に取り組む必要がある。

②累積欠損比率
現在、欠損金の補填財源もない中、今後も給水収益の減少や施設の修繕費の増加が見込まれることから、欠損金を減少させるには料金改定等による経営改善が必要である。

③流動比率
現金預金等の流動資産の減少により流動比率が下降しているため、料金の増収や建設改良費の抑制などの対策が必要となる。

④企業債残高対給水収益比率
給水収益は年々減少傾向で企業債残高は年々増加傾向であるため、比率は増加傾向で推移してくと想定される。

⑤料金回収率
給水収益は今後も減少傾向が見込まれることから、回数率も減少していく見込みであるため、早期に適正な料金改定が必要となる。

⑥給水原価
給水収益の減少傾向から、更なる費用削減等の検討が必要と考える。

⑦施設利用率
施設の減価償却費は完了しているが、人口減少に伴い水需要は減少傾向にあることから、今後の状況を見据えた検討が必要となる。

⑧有収率
老朽管更新等の事業により増加傾向で推移しているが、減少していかないよう更なる施設維持管理の強化に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：資産の老朽化度合は微増しているものの、老朽管更新事業を計画的に進めている。今後も経営に与える影響を踏まえながら適切な投資計画が必要と考える。

②管路経年化率：法定耐用年数を経過した管路はないものの、資産の老朽化度合はゆるやかな増加が見られる。今後も経営に与える影響を踏まえながら事業費の平準化を図るなど、計画的かつ効率的な更新が必要と考える。

③管路更新率：老朽管更新事業を計画的に進めているものの、更新等の財源確保や経営に与える影響は今後厳しいものがある。これらを踏まえながら適切な管路更新が必要と考える。

全体総括

人口減少等に伴う給水収益の減少は避けられない状況であり、現状のままでは経営悪化に歯止めがかからないことから、適正な料金改定の実施と老朽管更新事業を必要最小限に抑制することで、経営基盤の強化を図る必要がある。